

独立と自由ほど尊いものはない — ホー・チ・ミンのベトナム —

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

高層ビルが林立する国際的経済都市ホーチミンはフランスに支配されていた時代に東洋のパリと呼ばれていた。アメリカの介入によるベトナム戦争で南北が対立し、南ベトナムの首都サイゴンは陥落後、新たにホーチミンとして再生する。

ベトナム解放・統一50周年式典は4月30日、北ベトナムの戦車が突入した旧大統領官邸の前で行われた。約1万3千人にのぼる祝賀パレードの先頭には建国の父と讃えられたホー・チ・ミン(1890—1969)の写真が掲げられた。

超大国の横暴に抗してホー・チ・ミンは戦乱を終局に導き、戦後の復興と平和と発展の礎を築く。虐げられたアジアの小国は不可能と思われたことを可能にした。困難を極めた歴史的足跡は時代を超えて激動の現代に通じている。

海を渡って30年ぶりに帰国

ホー・チ・ミンはフランスの植民地だった王朝ベトナム中部のゲアン省ナムダン県キムリエン村で生まれた。儒学者の父の影響で幼い頃から論語を学び中国語を習得する。父が宮廷に仕えるようになると高級官吏を養成する国学(国立高等学校)に進学し、フランス語の勉強に精を出す。しかし高い税金に苦しむ農民たちの抗税運動に参加し、フランス当局から睨まれて退学処分となった。

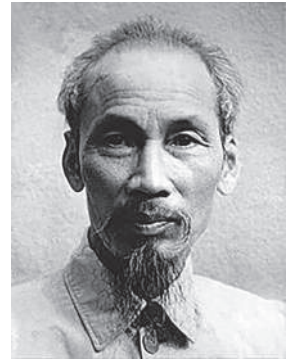
中学校の教員を経て21歳のとき商船の見習いコックとしてフランスへ渡る。マルセイユに到着

し、カフェでコーヒーを注文すると店員から敬語を使われて感激したという。フランスでは植民地の官吏養成学校に入学願書を提出したものの受理されず、船員となって世界各国を周航した。

本格的に英語を身につけようとアメリカからイギリスに移り住み、懸命に働いた。ロンドンのカールトンホテルでは高名なシェフのオーギュスト・エスコフィエのもとで料理の腕を磨く。

第一次世界大戦が1914年に勃発すると急速に社会問題への関心を深めていった。1917年パリへ戻り、ロシア革命に触発されてフランス社会党に入党し、新たに安南愛国者協会を設立する。1919年、第一次世界大戦の講和会議であるベルサイユ会議に安南愛国者協会を代表して出席し、安南人民の要求としてベトナムにおける政治犯の釈放、報道・言論・結社の自由などをアピールした。

ロシア革命の指導者レーニンによる『民族問題と植民地問題に関するテーゼ』を読んで感動し、1923年にソビエト連邦を訪れて植民地主義からのアジアの解放を決意する。中国でベトナム青年革命同志会を創設し、民族自決をめざす社会主義グループなどの組織化に奔走した。



ホー・チ・ミン

ナチス・ドイツによるポーランド侵攻で1939年、第二次世界大戦が始まり、翌年ベトナムなどインドシナ半島は日本軍に制圧された。1941年、ホー・チ・ミンは30年ぶりに帰国し、ベトナム独立同盟を結成して民族解放闘争を開始する。

力の及ぶ限り人民に奉仕

1945年8月15日、日本がポツダム宣言を受諾して無条件降伏すると全土で総蜂起し、ベトナム民主共和国を建国して国家主席兼首相に就任した。しかし旧宗主国フランスはベトナムの独立を承認せず、翌年からベトナム軍への攻撃を開始する。ホー・チ・ミンは「奴隷として生きるより生贄に殉じる方がよい」と全国民に徹底抗戦を訴えた。ベトナム軍は平野部から北部山岳地帯に移動して抵抗し、1951年にベトナム労働党を結成して攻勢に転じていく。1954年、ディエンビエンフーの戦いに勝利し、フランス軍はインドシナ半島から全面撤退した。凱旋したポー・グエン・ザップ将軍にホー・チ・ミンは「ご苦労だったね。だが次はアメリカだよ」と語り、フランスを支援していたアメリカとの激闘を予測していた。

アメリカは南部のサイゴンを中心に干渉を強めていく。1955年、傀儡国家のベトナム共和国が樹立され、ベトナムは北緯17度線で南北に分断された。サイゴンの軍事独裁政権に対する反発は強く、北部ハノイのベトナム労働党政権の支援のもと1960年に南ベトナム解放民族戦線が発足し、大規模な軍事介入を始めた米軍と対峙する。

米軍は1965年、ベトナム民主共和国への北爆を開始し、戦火は全国に広がった。翌年のラジオ演説でホー・チ・ミンは「抗米救国檄文」を発表し「独立と自由ほど尊いものはない」とベトナム民衆を鼓舞する。世界最強の米軍の猛攻に対してベトナムはゲリラ戦で対抗し、ベトナム反戦運動の世界的な高揚を背景に戦局を優勢にしていく。北爆を指示したジョンソン大統領は再選不出馬に追い込まれ、1969年に就任したニクソン大統領は泥沼の戦いからの撤退を模索するようになった。同年ホー・チ・ミンは79歳で死去する。

遺書には「生涯を通じ、私は心から力の及ぶ限り祖国と革命と人民に奉仕してきた。いまこの世

から去るとしても心残りは何もない。ただ、これ以上奉仕できないことを残念に思うだけである。私亡きあと盛大な葬儀をして人民の時間とお金を浪費しないようにしてほしい」と記されていた。自分が犯した過ちとしてタバコを喫いすぎること、生涯結婚しなかったことを生前に語っている。

やさしく微笑むホーおじさん

米軍は1973年に全面撤退し、南ベトナムと北ベトナムの戦いは1975年4月30日に終結した。南ベトナムの首都サイゴンは5月1日、ホー・チ・ミンを記念してホーチミンに改称された。その後、南北の統一が実現し、1976年にベトナム社会主義共和国が誕生する。新生ベトナムはアメリカを含む全方位外交を展開し、ドイモイ＝刷新を旗印に目覚ましく発展していく。とはいえ米軍が散布した枯れ葉剤による被害は現在も続いており、周辺国を含めて多数の不発弾が残っている。

革命によって権力を掌握すると独裁者になる指導者は少なくない。ところがホー・チ・ミンは神格化されることを嫌い、反対派を粛清せず腐敗や汚職にまみれることもなかった。晩年に住んでいたハノイの家はきわめて質素で私生活についてほとんど語らず自伝も残さなかったことから、後継の指導部や軍人たちのあいだで自画自賛しないという謙虚な姿勢が受け継がれた。その一方で旧南ベトナムからの難民が大半を占めるベトナム系アメリカ人などには武力によって祖国を共産化した首謀者として憎悪の標的にされている。

ベトナム戦争に際しては精神論を説くだけではなく徹底したリアリストとして戦況を見極めることに腐心した。「自分の主観をもって現実の条件に変えるようなことがあってはならない」と論じて「足を削って靴に合わせるのではなく靴は必ず足に合わせ、牛舎をつくるには牛の体位を測れ」とわかりやすく指導する。重要な政策については徹底的に議論し、全会一致で決定した。

穏やかな風貌で庶民から親しみを込めてホーおじさんと呼ばれていた。貧しい家庭を訪問すると涙を流し、生活の手助けをする。ポケットにはいつも飴玉を入れており、街かどで子供に会うとやさしく微笑んで手渡した。